大学に行きデータサイエンスの博士課程を卒業する、その間に本を書い

本を出版する、そのお金で大学でデータサイエンスの博士課程を卒業する、その間に、ディープラーニング機械学習の理解を深めて、新しいものを生み出せる基盤を作る、焦るな、正解を急ぎすぎる以外も考える、博士課程大学で一日中勉強して、新しいものを生み出して、

新しい技術や最先端の分野を作りサービスを作る、差が影響力、富、名声、を作る、この最先端の技術を生み出すものだけはいつまでどこまで行っても、お金という制度がなくなろうと、名声、影響力は依然として存在する、つまり、研究、学習→新しいものを生み出す、本、

仕事の時間は本当に無駄、<仕事で必死に動いて、体を活性化させることは出来る、仕事中に Audibleで学習し続ける、急速に重点を置く>人生の時間は有限、仕事とは本来俺のやりたいこととは違う、人がやりたくないから、他人にやらせて自分が設けるために、仕事があるのと、衣　食　住の為に必要な仕事が基本的にある、これらに時間を使えば使うほど、これらで行う努力は実際に自分を幸福にはしない、本質ではない、あくまで生きるためにお金を稼ぐために最低限の必要に応じて仕事をするようにする、それぐらい、自分に向き合う、

現実に本を出す際、本気でやれ、嫌悪感は多少だこれなら超えれると思え、

アインシュタインはその最高の公式でその後も公開しなければ成功をおさめれていたなのになぜ公開したのか

２、自分の公式は論理の果てに構築できた思考であり、であればあとから誰かがすぐにでも発見するだろう、今の自分がなにか世界を変えれる発明ができるだろうか、起業し、そこで新しいテクノロジーを作成したとき、そのテクノロジーを分解すれば公式が見つかりいずれにせよ、その公式を公開するのは自分ではなくなる、

最高のテクノロジーを公開するのは公式を自分が見つけれたことにできて、

その後の発展は自分一人でするより、世界と協力したほうがいい、これを公開した原理には世界が共通の目的を達成するという思考があったのだ、その思考があったから公開し、公開したことで世界は発展し豊かになったアインシュタインは偉大なことを成し遂げたのだ、最後アインシュタインは論理ではなく博愛を記したのだ。偉大だ。

私に何が出来るだろうか、考えろ。